

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	災害時要配慮者に関する防災支援・交流プロジェクト		
申請大学・高校等名	大学及び高校等名	関西大学	
	活動グループ名	近藤誠司研究室	参加学生等人数 17人
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	社会安全学部 安全マネジメント学科	
	責任者氏名	近藤誠司	連絡先電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	尼崎市難病患者団体連絡協議会	
	代表者氏名	小山昇孝(事務局長)	連絡先電話番号
	E-mail		
教育・研究活動目標	尼崎市は南海トラフ巨大地震等が発生した場合、市域で甚大な被害が発生することが予想されている。また大型台風による高潮災害のリスクも高い地勢にある。そうしたなかにあつて、難病患者・障害児者、高齢者などの要配慮者は、防災対策を促進することに苦慮している。そこで本プロジェクトでは、災害時配慮者との交流を通して、学生が実態調査をおこない、研究室で支援手法に関する課題の検討と情報発信をおこなう。		
活動内容及び実績、評価	(活動内容及び実績) <b>【1】 尼崎市難病団体連絡協議会の要配慮者シンポジウム</b> 2020年度の冬に予定していたシンポジウムがコロナ禍の影響によって延期されたことから、本年度、2021年7月3日に、「コロナ災害を乗り越える～防災福祉ミーティング～」を実施した。しかし、このシンポジウムにおいても、来場者を集めることは断念することになった。そこで、登壇者のスピーチをビデオ録画して youtube 配信することにした。 <a href="http://kondoseiji.main.jp/2021/08/02/symposium-amaren-20210703/">http://kondoseiji.main.jp/2021/08/02/symposium-amaren-20210703/</a> また、2022年2月にも、要配慮者支援を主題とする防災福祉シンポジウムを企画していたのだが、コロナ禍の影響を鑑みて、次年度に延期することになった。 <b>【2】 手をつなぐ育成会との交流</b> 2021年10月29日、兵庫県加西市民ホールにて、第65回兵庫県知的障害者福祉大会で、「みんなのぼうさい～支え合い、学び合い～」と題して、これまでの成果をふまえながら防災福祉に関する講演をおこなった。この講演会の会場に、学生も参加して交流したかったのだが、コロナ禍の影響を検討した結果、断念することにした。 <b>【3】 FM あまがさきにおける情報発信</b> 2018年10月14日から、毎週月曜日、FM あまがさきで、「ぼうさいアイアイ」という防災福祉番組を放送してきた。ちょうど本年度のプロジェクトがはじまる直前には、「ジャパン・レジリエンス・アワード(教育機関部門)」で金賞を受賞するという栄誉にあずかった。そして本年度も、コロナ禍の影響でスタジオにうかがえないこともあったが、電話収録などもおこない、1度も休むことなく放送することができた(第131回～第183回)。しかし残念ながら、FM あまがさきの編成改訂にともない、本年度末で終了することになった。		

なお、「ぼうさいアイアイ」のシリーズ自体は幕を閉じるが、当該コンテンツは、ウェブサイトを作成して「聞き逃しサービス」を展開することで、より多くの人に試聴していただくことができた。 [http://kondoseiji.main.jp/movie/bousai\\_aiai/](http://kondoseiji.main.jp/movie/bousai_aiai/)

※「聴く」をクリックすると、別ウィンドウでYoutubeが開きます。

通算	放送日	出演	テーマ	再生
150	2021年8月12日	弓場珠希	土砂災害クイズ	聴く
149	2021年8月5日	蔡一然・近藤誠司	中国語で防災をまなびましょう その4	聴く
148	2021年7月29日	後藤那月	災害時にスマホのできる事 防災アプリ編	聴く
147	2021年7月22日	足立欣哉	身近にある日用品を使って防災に活用してみよう! ツナ缶	聴く
146	2021年7月15日	吉田三莉・弓場珠希	始めよう、腸活	聴く
145	2021年7月8日	後藤那月・足立欣哉	スマホの活用法 基礎編	聴く
144	2021年7月1日	松谷実奈	尼崎クイズ 第2回(尼崎の姉妹都市・友好都市)	聴く
143	2021年6月24日	蔡一然・近藤誠司	中国語で防災をまなびましょう その3	聴く
142	2021年6月17日	蔡一然・近藤誠司	中国語で防災をまなびましょう その2	聴く
141	2021年6月10日	横山豪	梅雨バテに注意しよう	聴く
140	2021年6月3日	安田結吏・松谷実奈	出前講座 第1回(避難の情報が変わりました)	聴く
139	2021年5月27日	蔡一然・近藤誠司	中国語で防災をまなびましょう	聴く

図1 「ぼうさいアイアイ」の聞き逃しサービス用アーカイブページ(抜粋)

(評価)

・想定していた活動成果に対する達成度合い

防災福祉ラジオの放送という取り組みにおいては、百点満点に近い充実度があった。しかし、対面式のシンポジウムならびに交流の機会の醸成という点においては、対象者に高齢者が多く含まれていること、また、活動主体が大学生であることから、どうしても慎重に構えることが求められて、実現したくても実現できないことも数多くあった。しかしそうしたなかで、オンラインの動画を制作するなど、「離れていてもできること」を、それぞれが工夫して取り組めたことは、ひとつの成果であったと考える。動画制作のスキルが上達した(はじめてカメラマンを担当した等)ことを、新たな学びとして受け止めている学生もいた。今後も、このような「関わり方」のアイデアを継承していきたい。

・学生等が関わった地域、団体の活動の変化等

尼崎市難病団体連絡協議会においては、動画配信形式が実現できたことから、今後もハイブリッド(対面・配信)形式のシンポジウムが企画できる手応えを得ている。しかし同時に、やはり、対面式の機会を確保することの大切さも強く認識するところであり、それが次年度の取り組みの大きな検討課題になりそうである。具体的には、大きなシンポジウムを企画するのではなく、少人数形式の交流の機会を積み上げることなどが想定される。

手をつなぐ育成会においては、尼崎市のメンバーの推挙によって兵庫県大会の参加機会を頂戴したが、この経験をふまえて、2022年度には、加古川市の育成会で、防災講演をするなどの「水平展開」の機会が生まれてきている。もちろんこれは、尼崎市域の外に出ていくことであるため、もういちど、尼崎市に還元するベクトルも考えていきたい。

FMあまがさきの取り組みは、内外から高い評価を得てきた。先述したとおり、「ジャパン・レジリエンス・アワード金賞」を受賞することができた(教育機関部門では最優秀)。

また大学内では、当該実践の内容を主題として、地域連携センター主催のプレゼンテーション大会でゼミ生が発表し、最優秀賞をおさめ、さらに、関西大学・学長奨励表彰を受賞することもできた。本年度末で放送を閉じることは残念ではあるが、今後は、これまでにラジオ収録の作業で培ったノウハウを生かして、youtube 動画配信シリーズとして展開していこうと企画しているところである。

・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等

コロナ禍で、なかなか「現場」(地域)にうかがえないなかで、学生は「想像力」によって、いま何をすべきか、それを達成するにはどんな方法(セカンドベスト)があるか、いろいろ考えてくれるようになったものと評価している。

学生のひとりには、FMあまがさきで取り組んできたことを卒業論文にまとめ、学部内で発表し、「優秀発表賞」を受賞した。困難な状況のなかにあつて、困難であるからこそ「ポテンシャルティ」を見出していくことの大切さを学んでくれており、その成長ぶりは頼もしいものがある。また、プロジェクト自体は、後輩の世代に受け継がれることになった。課題に対して、「持続的に取り組むことの重要性」をバトンできたことも、大きな成果であると感じている。すでに後輩の世代では、新たなアプローチで尼崎市の防災福祉の分野にかかわれないか、検討を始めてくれている。今後の展開が楽しみである。

(写真の掲載に関しては、割愛させていただきます)

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。